



発行 群馬育英学園
学校法人 広報委員会

ご挨拶

群馬育英学園

理事長 中村義寛



2021年、令和3年の新年を迎え謹んでお慶び申し上げます。昨年は新型コロナウイルスが世界中で猛威を振るい、感染拡大はいまだに収束の兆しが見えない状況です。

本学園においては昨年3月の前橋育英高等学校・卒業式、育英短期大学・学位記授与式は規模を縮小して挙行しましたが、4

月の入学式や様々な行事が中止や内容変更を余儀なくされました。また、高校生の部活動においても、群馬県・北関東を中心に行われる予定のインターハイ中止をはじめ、各大会が中止となりました。4月7日、政府の緊急事態宣言が発令後、大学・短大の授業は1か月遅れの5月11日から遠隔授業が始まり、急遽導入されたオンライン授業は学生の皆さん、教職員の皆さんに多大なご負担をおかけしたと思います。また、高等学校も6月15日から分散授業を開始しました。大学・短大・高校とともに常勤・非常勤を含め教職員の皆様、各関係者の皆様のご尽力ご協力により授業を開

始、進めることができ改めて感謝申し上げます。コロナウイルスへの引き続きの対応が続く中、学内・校内の感染拡大防止や情報教育環境、教育環境整備等について最大限の努力をさせていただきます。

育英大学はこの4月で開学4年目を迎え完成年度となります。また前橋育英高等学校では2022年度からカリキュラム変更により保育科が普通科保育コースとなります。これは育英短期大学への進学のみでなく、育英大学教育学部児童教育専攻への進学、又は多方面の進路選択を可能にするための変更となります。

育英大学・育英短期大学・前橋育英高等学校ともに、コロナ禍にあっても、より一層の改革・進化を遂げ、グローバル化、AI化に対応するべく情報環境を整え、教育内容を充実させ地域社会、全国から評価される学園を目指してまいります。今後とも関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。新型コロナウイルスが収束し、本年が皆様にとって良い年になりますよう祈念して、年頭にあたってのご挨拶と致します。



食堂棟



第2体育館

- 延床面積：食堂棟417.69㎡／第2体育館648㎡
- 構造：軽量鉄骨造平屋建
- 設計・監理：株式会社亦野建築設計事務所
- 施工：池下工業株式会社

食堂棟・第二体育館完成 施設拡充について

昨年9月7日、群馬育英学園に「食堂棟」と「第二体育館」が竣工しました。育英大学の完成年度を迎えるにあたり増加する学生に、新たに学生食堂を設け憩いのスペースとして活用してくれると期待しております。育英大学設置認可を受ける際に運営上に課題がありましたので、学生の教育環境の充実を図るため第二体育館を設置しました。大学強化指定クラブであるレスリング部が練習拠点とし、東日本学生リーグ1部で奮闘しています。また、大学教育学部スポーツ教育専攻の授業でも使用し、学生・教職員の多様なニーズに合った教育環境が整いました。これからも進化し続けるキャンパスで、大学・短期大学共により高質な教育を追求して参ります。

謹賀新年

- 役員・評議員**
- 学園長 ※ 中村 有
理事長 ※ 中村 義寛
理事 ※ 天学 短大 学長 中村 義寛
理事 ※ 高校 校長 石井 學
理事 ※ 金子 雅人
理事 ※ 高山 雅人
理事 ※ 佐伯 昭一
理事 ※ 岩川 正典
理事 ※ (法人本部長) 山田 耕介
理事 ※ 泉 清水
理事 ※ 肥後 正喜
理事 ※ 小野 澤正喜
理事 ※ 山田 耕介
理事 ※ 福島 英人
理事 ※ 前田 宏
理事 ※ 富岡 政明
理事 ※ 代田 恭之
理事 ※ 富岡 政明
理事 ※ 新井 保幸
理事 ※ 神山 義幸
理事 ※ 岡田 雅哉
理事 ※ 武田 雅彦
理事 ※ 久住 洋
理事 ※ 新井 信雄
理事 ※ 根岸 美智代
理事 ※ 関根 映一
理事 ※ 中島 篤
理事 ※ 北條 哲成
理事 ※ 遠山 浩二
理事 ※ 石井 晃英
理事 ※ 大塚 智枝子
理事 ※ 石井 昌代
理事 ※ 高月 有記恵
理事 ※ 亦野 高裕
理事 ※ 北原 崇夫
- 評議員**
- 評議員 伊藤 憲康
評議員 高月 広喜
- 法人本部**
- 総務部 財務課長 伊藤 憲康
総務部 企画課長・財務課次長 高月 広喜
- 大学・短期大学**
- スポーツ教育専攻 教授 朝岡 正雄
保育学科 教授 松本 尚
学生支援部長 教授 柳川 美磨
図書館長 教授 内田 基美
幼児教育研究所 教授 小室 基香
教職キャリアセンター 教授 藤島 喜代仁
学生支援課長・キャリアサポート課長 中井 俊二
学生支援課長補佐・キャリアサポート課長補佐 馬津 秀一
教務課長 中澤 朋弘
教務課次長 平澤 精人
入試広報課長 桂 健太郎
キャリアサポート課長補佐 福室 秀一
キャリアサポート課長補佐 青木 茂人
- 高等学校**
- 教頭 上原 敏広
事務課長補佐 塚田 恵
- ※は評議員兼任

令和元年度 決算報告

学校法人 群馬育英学園

学園の令和元年度決算は、本年度5月29日(金)に開催された理事会において承認可決され、続いて開催された評議員会に報告されました。令和元年度決算は下記のとおりです。

事業活動収支計算書

平成31年4月1日より
令和2年3月31日まで (単位:円)

教育活動収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
学生生徒等納付金	1,585,097,000	1,604,083,860	▲18,986,860
手数料	52,754,000	51,454,226	1,299,774
寄付金	71,499,000	74,169,336	▲2,670,336
經常費等補助金	613,193,000	654,802,732	▲41,609,732
付随事業収入	36,602,000	38,394,000	▲1,792,000
雑収入	103,025,000	154,071,174	▲51,046,174
教育活動収入計	2,462,170,000	2,576,975,328	▲114,805,328

教育活動収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
人件費	1,651,853,000	1,726,428,574	▲74,575,574
教育研究経費	699,177,000	717,992,059	▲18,815,059
管理経費	139,948,000	197,397,067	▲57,449,067
徴収不能額等	0	475,000	▲475,000
教育活動支出計	2,490,978,000	2,642,292,700	▲151,314,700
教育活動収支差額	▲28,808,000	▲65,317,372	36,509,372

教育活動外収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
受取利息・配当金	241,000	114,820	126,180
教育活動外収入計	241,000	114,820	126,180

教育活動外収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
借入金等利息	815,000	708,993	106,007
教育活動外支出計	815,000	708,993	106,007
教育活動外収支差額	▲574,000	▲594,173	20,173
經常収支差額	▲29,382,000	▲65,911,545	36,529,545

特別収支 事業活動収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
資産売却差額	0	0	0
その他の特別収入	13,532,000	24,515,380	▲10,983,380
特別収入計	13,532,000	24,515,380	▲10,983,380

特別収支 事業活動支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
資産処分差額	0	3,281,500	▲3,281,500
その他の特別支出	0	2,939,833	▲2,939,833
特別支出計	0	6,221,333	▲6,221,333
特別収支差額	13,532,000	18,294,047	▲4,762,047

科目	予算	決算	差異(▲)
[予備費]	30,000,000	30,000,000	0
基本金組入前当年度収支差額	▲45,850,000	▲47,617,498	1,767,498
基本金組入額合計	▲42,701,000	▲171,903,871	129,202,871
当年度収支差額	▲88,551,000	▲219,521,369	130,970,369
前年度繰越収支差額	▲4,096,090,139	▲4,096,090,139	0
翌年度繰越収支差額	▲4,184,641,139	▲4,315,611,508	130,970,369

(参考)

事業活動収入計	2,475,943,000	2,601,605,528	▲125,662,528
事業活動支出計	2,521,793,000	2,649,223,026	▲127,430,026

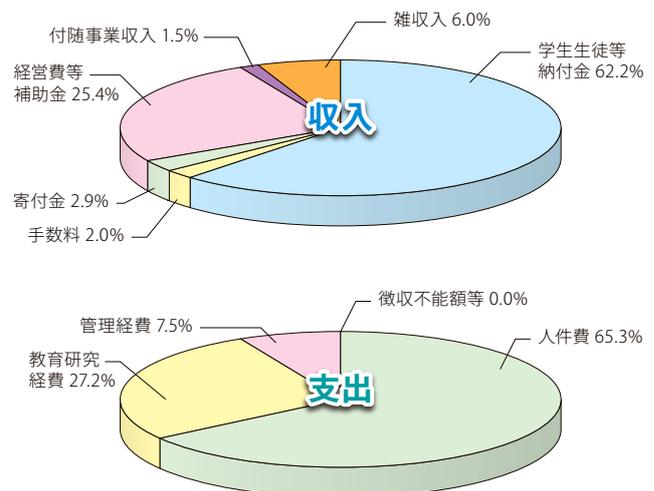
資金収支計算書

平成31年4月1日より
令和2年3月31日まで (単位:円)

収入の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
学生生徒等納付金収入	1,585,097,000	1,604,083,860	▲18,986,860
手数料収入	52,754,000	51,454,226	1,299,774
寄付金収入	71,499,000	74,169,336	▲2,670,336
補助金収入	613,193,000	654,802,732	▲41,609,732
資産売却収入	0	380,000	▲380,000
付随事業・収益事業収入	36,602,000	38,394,000	▲1,792,000
受取利息・配当金収入	241,000	114,820	126,180
雑収入	103,025,000	154,229,654	▲51,204,654
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	157,390,000	151,982,000	5,408,000
その他の収入	1,114,500,000	1,295,743,095	▲181,243,095
資金収入調整勘定	▲128,880,000	▲241,805,209	112,925,209
前年度繰越支払資金	1,201,184,724	1,201,184,724	0
収入の部合計	4,806,605,724	4,998,425,638	▲191,819,914

支出の部			
科目	予算	決算	差異(▲)
人件費支出	1,651,853,000	1,681,827,124	▲29,974,124
教育研究経費支出	505,726,000	509,224,863	▲3,498,863
管理経費支出	134,453,000	194,075,964	▲59,622,964
借入金等利息支出	815,000	708,993	106,007
借入金等返済支出	42,293,000	44,983,000	▲2,690,000
施設関係支出	49,200,000	182,829,823	▲133,629,823
設備関係支出	32,221,000	30,225,352	1,995,648
資産運用支出	0	55,477,843	▲55,477,843
その他の支出	1,162,159,000	1,269,136,898	▲106,977,898
予備費	30,000,000	0	30,000,000
資金支出調整勘定	▲27,587,000	▲92,242,755	64,655,755
翌年度繰越支払資金	1,225,472,724	1,122,178,533	103,294,191
支出の部合計	4,806,605,724	4,998,425,638	▲191,819,914

令和元年度 事業活動収支構成比率



〔注記〕

1. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

- 徴収不能引当金
未収入金等の徴収不能に備えるため、個別に見積もった徴収不能額を計上する事としている。
- 退職給与引当金
期末要支給額1,037,767,884円から公益財団法人群馬県私学振興会(退職団体)よりの要交付額992,430,414円を控除した45,337,470円全額計上している。

(2) その他の重要な会計方針

- 預り金その他経過項目に係る収支の表示方法
預り金については、総額表示している。
- 食堂その他教育活動に付随する活動に係る収支の表示方法
補助活動に係る収支については、総額表示している。

2. 重要な会計方針の変更等

該当なし

3. 減価償却額の累計額の合計額 4,765,785,417円

4. 徴収不能引当金の合計額 0円

5. 担保に供されている資産の種類および額

土地	2,405,914,057円
建物	2,773,934,388円

6. 翌会計年度以後の会計年度において基本金への組入れを行う

こととなる金額 149,702,044円

7. 当該会計年度の末日において第4号基本金に相当する資金を

有していない場合のその旨と対策

第4基本金に相当する資金を有しており、該当しない。

8. その他財政及び経営の状況を正確に判断するために必要な事項

(1) 通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理を行っている

所有権移転外ファイナンス・リース取引

- 平成21年4月1日以降に開始したリース取引

リース物件の種類	リース料総額	未経過リース料期末残高
教育研究機器備品	10,582,440円	6,282,354円
管理用機器備品	4,597,614円	1,555,432円

(2) 関連当事者との取引

関連当事者との取引の内容は、次のとおりである。

- 属性 役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社
- 役員法人等の名称 上毛資源株式会社
- 住所 前橋市高井町
- 資本金又は出資金 50,000,000円
- 事業の内容又は職業 廃棄物処理・清掃業務会社経営
- 関係内容
 - 役員の兼任等 兼任1名
 - 事業上の関係 廃棄物処理・清掃業務契約
- 取引の内容 校内廃棄物処理及び清掃委託(注1)
- 取引金額 14,238,430円

(注1) 業務委託費については市場価格を勘案して一般的な取引条件と同様に決定している。

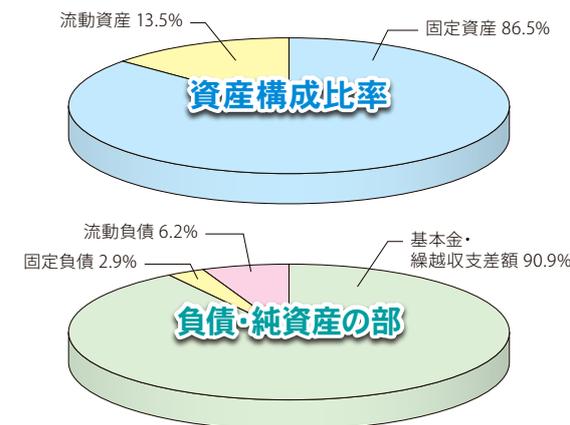
貸借対照表

令和2年3月31日現在 (単位:円)

資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定資産	7,751,941,202	7,691,528,919	60,412,283
有形固定資産	7,658,910,398	7,653,880,739	5,029,659
土地	3,165,261,343	3,161,760,184	3,501,159
建物	3,619,533,058	3,604,163,169	15,369,889
構築物	227,226,449	230,634,064	▲3,407,615
教育研究用機器備品	297,281,613	321,853,672	▲24,572,059
管理用機器備品	28,310,989	27,562,700	748,289
図書	248,792,746	245,352,159	3,440,587
車輛	33,784,200	38,554,791	▲4,770,591
建設仮勘定	38,720,000	24,000,000	14,720,000
特定資産	51,976,448	736,020	51,240,428
退職給与引当特定預金	45,337,470	736,020	44,601,450
クラブ活動特定預金	6,638,978	0	6,638,978
その他の固定資産	41,054,356	36,912,160	4,142,196
電話加入権	1,963,507	1,963,507	0
保険積立金	16,278,879	12,271,343	4,007,536
敷金	1,279,000	1,249,000	30,000
貸付金	21,269,000	21,269,000	0
その他預託金	263,970	159,310	104,660
流動資産	1,211,332,443	1,226,451,436	▲15,118,993
現金預金	1,122,178,533	1,201,184,724	▲79,006,191
未収入金	78,901,049	12,327,216	66,573,833
有価証券	724,238	724,039	199
前払金	6,928,598	9,748,060	▲2,819,462
仮払金	2,600,025	2,467,397	132,628
資産の部合計	8,963,273,645	8,917,980,355	45,293,290

負債の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
固定負債	263,034,178	207,209,424	55,824,754
長期借入金	53,500,000	96,432,000	▲42,932,000
退職給与引当金	45,337,470	736,020	44,601,450
長期未払金	164,196,708	110,041,404	54,155,304
流動負債	552,124,301	515,038,267	37,086,034
短期借入金	42,932,000	44,983,000	▲2,051,000
未払金	30,907,069	33,493,678	▲2,586,609
前受金	152,064,500	163,889,500	▲11,825,000
預り金	326,220,732	272,672,089	53,548,643
負債の部合計	815,158,479	722,247,691	92,910,788

純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減(▲)
基本金	12,463,726,674	12,291,822,803	171,903,871
第1号基本金	12,277,726,674	12,146,822,803	130,903,871
第4号基本金	186,000,000	145,000,000	41,000,000
繰越収支差額	▲4,315,611,508	▲4,096,090,139	▲219,521,369
翌年度繰越収支差額	▲4,315,611,508	▲4,096,090,139	▲219,521,369
純資産の部合計	8,148,115,166	8,195,732,664	▲47,617,498
負債及び純資産の部合計	8,963,273,645	8,917,980,355	45,293,290



令和元年度 貸借対照表

育英大学 育英短期大学 だより

学生数

大学教育学部	278人
短期大学	
保育学科	422人
現代コミュニケーション学科	163人

道徳心と専門性を備えた 人材の育成をめざして



育英大学・育英短期大学
学長 石井 學

コロナウィルスに始まり、コロナウィルスに暮れた一年となりましたが、新春を迎え1日も早い終息を祈念いたします。

混乱した1年でしたが、お陰様で開学3年の育英大学は順調に推移しております。これも教職員をはじめとする関係者のみなさんの努力の賜物であり感謝致す次第です。

令和3年は大学の完成年度となり、第1回の卒業生を社会に送り出すこととなりますが、教育学部

教育学科として、まずは教員、次に公務員の採用試験の合格を目指し、教員、公務員の採用試験対策講座を開設しています。夏休み、冬休みなどの長期休暇を利用し、開講するダブルスクール制の対策講座で、学生の就職活動をサポートしています。30年以上の実績をもつ「資

格学校TAC」と連携しノウハウを活用して、多くの合格者を出すための努力をしています。

受験生にとって、大学評価基準の一つとして卒業生の進路先があり、次年度の受験動向を左右するため、教職員一体となって就職活動に取り組めます。

なお、令和4年度以降は、文部科学省の規制が大幅に緩和されるなかで、カリキュラムを含めての大学改革に取り組めます。

育英短期大学は、保育学科現代コミュニケーション学科の2学科制で県内では「イク短」の名称で広く知られていますが、全国的に短期大学の入学者は減少傾向で、厳しい状況の中での積極的な改革が求められています。

保育学科は、文部科学省の進める幼小接続に対応するため、より

高度の教育を実施する目的で、スペシャルプログラムを用意しました。子ども表現プログラム、子供文化プログラム、子ども運動プログラムの3プログラムで、学生の希望に応じて選べます。併せて現場で即戦力となる専門性の高い保育者の養成を目指します。

現代コミュニケーション学科は、知る、調べる、話す、表現するという実践的コミュニケーション能力を高める教育を行っています。来年から全国大学初のこころみとなる、eスポーツを取り入れたコースを開設する予定です。IT技術者を養成したり、介護施設と連携して認知症の治療に役立てたりと幅広い展開を考えています。

今後、教育、教育現場でかかえる多くの問題の中心となって対応するには、AIロボットではなく、人間であるとの視点にたち改革を進めます。Society5.0もAIやロボットに支配され、看視されるような未来ではなく、日々の煩雑で不得手な作業などから解放されて誰でもが、快適で活力に満ちた質の高い生活を送ることが出来るようになる、人間中心の社会のこととされています。

社会はどのように変化しても、育英大学および育英短期大学の建学の精神である「公正・純真・奉仕・友愛」をもとに、道徳心と専門性を備えた人材の育成を続ける事で地域社会に愛され、必要とされる育英大学・育英短期大学となることを目指していきたいと考えています。

短期大学学科だより



保育学科長
松本 尚

コロナ禍における 保育者養成について

新年あけましておめでとうございます。昨年中はコロナ禍において保育学科では保育士・幼稚園教諭の資格・免許取得のための実習が思うように実施できず不安を抱えた一年でありました。社会的立場から医師・看護師・介護福祉士・保育士の資格を有

する職場では、新型コロナウイルスの影響下においても休みなく勤務し、休養の取れない中でも、休みなく働いていた社会のインフラとしての役割が果たされていました。社会にとって必要とされる保育の仕事は、災害時などでも直接的ではないものの必要とされる職業の一つとなっています。遠隔授業で本来の学習が行えない状況下においても、本学での教育の目的は、社会の一翼を担う保育者養成だと考えています。4月から社会人として保育の職場で働く卒業生には、社会福祉の世界で活躍してほしいと願っています。今後とも教職員一同、保育の育英と言われ続けられるように本学の教育力を高めてまいりますので、皆さまからのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



現代コミュニケーション学科長
泉水清志

現代コミュニケーション学科 の将来について

新年あけましておめでとうございませす。日頃より地域や皆様方のご支援に対し、大変感謝いたします。今年度は新型コロナウイルス感染症のため、遠隔授業・分散登校といった例年とは異なる教育を行わざるを得ませんでした。その中でも新入生八十三名及び二年生は有意義な短大生活を過ごし

ております。

「ウィズコロナ」では社会の変化が急激であり、それに合わせて短期大学の教育も変えることが必要です。現代コミュニケーション学科は、従来の六つのコースに基づく教育に加え、令和三年度よりeスポーツに関する教育を行い、プログラミングの基礎的技術及びこれからの新しいコミュニケーション能力を修得した、今後の社会に必要とされる人材を養成してまいります。前橋育英高校との連携・接続をさらに進め、育英大学とも協力しながら、群馬育英学園の発展のために学科教員一同努力していきたいと思っております。今後とも変わらぬ皆様方のご支援・ご指導のほど、よろしくお願い申し上げます。

大学専攻だより



教育学部長
児童教育専攻長
新井保幸

完成年度を迎える

育英大学

新年おめでとうございます。さて、育英大学は今年、一年生から四年生までの全学年が揃い、完成年度を迎えます。一期生は入学定員の六割程度の充足でしたが、二期生以降は入学定員を充足できるようになりつつあります。



スポーツ
教育専攻長
朝岡正雄

新年明けましておめでとうございます。皆様の温かいご支援を賜り、スポーツ教育専攻は令和二年四月に入学定員を超える六十一名の三期生を迎え、無事三年目をスタートすることができました。しかし、本年度は、新型コロナウイルスの流行のために入学式が中止となるなど、学生も教員もさまざまな制約の下で大学生活を送らざるおえない一年とな

定員に余裕のある学年については、編入学制度を活用して、育英短期大学をはじめとする他大学の卒業業者等を迎え入れています。昨年は新型コロナウイルスに振り回された一年でした。一年生は入学式もできないまま、五月からいきなり遠隔授業が始まり、六月からは対面授業も併用するようになりました。が、暮れにはふたたび遠隔授業に戻ざるを得なくなり、また経験する遠隔授業への対応に追われました。今年目標は、コロナ禍で就職戦線がいつそう厳しさを増

しました。このような状況の中、四月の授業こそ休講となりましたが、幸いなことに五月十一日から遠隔授業、六月に入ってから分散授業を行うことができ、前期は十三回の授業を確保することができました。また後期は、九月二十三日から分散授業の形式で授業を進め、十五回の授業を確保する予定であります。

さらに三年生は、年明けに企業へのエントリーシートを提出し、三月からはいよいよ企業採用面接が始まるなど、本格的な就職活動を行う季節となり、五月には教育実習、七月以降

すなか、四年生全員を卒業させ就職させることです。児童教育専攻・幼児教育コースの三年生は春休みに初めての保育実習に取り組みますし、新年度に入ると教員免許取得希望の四年生は母校で教育実習を行い、それが終わると教員採用試験が待っています。一般企業等に進もうとする者は「内定」獲得まで就活漬けの日々が続きます。

このように今年の本学には対応しなければならぬ課題が目白押しで控えています。微力を尽くしてまいりますので、御理解と御支援をよろしくお願い申し上げます。

は教員・公務員の採用試験が始まります。また二年生は、十二月に行われる「就活スタートガイダンス」を皮切りに、いよいよ就活への準備が始まり、この春休みには教員・公務員試験対策講座が開かれる予定です。この春の講座は一般教養の内容が主となりますので、一般企業への就職を希望する学生にも強く受講を勧めています。現在のところ令和三年度入試も順調に推移し、昨年同様、この四月には入学定員を上回る数の四期生が入学してくる予定ですので、引き続き皆様方のご支援、ご指導のほどをお願い申し上げます。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で、令和元年度後期の成績優秀者及び令和2年度前期の成績優秀者に奨学金授与式を執り行うことができず個別に手渡しで行いました。奨学金は、半期授業料の半額相当です。成績優秀奨励学生は、以下のとおりです。

令和元年度後期・令和2年度前期の成績優秀者奨学金の授与

令和2年度 前期 成績優秀奨励学生

教育学部教育学科

児童教育専攻

- 1年 新井 玲衣
- 2年 平岡 れん
- 3年 阿部 幸音
- スポーツ教育専攻
- 1年 早川 慶
- 2年 前澤 小夏
- 3年 上原 優希

令和元年度 後期 成績優秀奨励学生

教育学部教育学科

児童教育専攻

- 1年 平岡 れん
- 2年 阿部 幸音
- スポーツ教育専攻
- 1年 前澤 小夏
- 2年 須藤 千聖

短期大学

保育学科

- 1年 行田 光希・稲垣 綾乃
- 浦田 雅・金井 捺海
- 羽鳥那奈美・中野 渚
- 現代コミュニケーション学科
- 1年 石田 優香・福島 晶美

令和2年度 前期 成績優秀奨励学生

教育学部教育学科

児童教育専攻

- 1年 稲垣 綾乃・須藤 七海
- 大谷まりん・羽鳥那奈美
- 行田 光希
- 現代コミュニケーション学科
- 1年 高草木葉音・小林真陽留
- 2年 石田 優香・福島 晶美

クラブ活動の主な成績

本学の学生が本年度に活躍した主な成績は次のとおりです。

①陸上競技部

■第97回東京箱根間往復大学駅伝競走予選会 (10/17)

・新田 颯(大学・スポーツ教育・2年) 1時間3分17秒(学生連合選出)

■関東学生陸上競技選手権大会(10/9、11/22)

・小林 拓巳(大学・スポーツ教育・1年) 男子2部棒高跳び・優勝

・山本 竜也(大学・スポーツ教育・1年) 男子2部棒高跳び・4位

・高橋 奎太(大学・スポーツ教育・3年) 男子2部棒高跳び・8位

・赤坂 雄斗(大学・児童教育・2年) 男子2部10000m競歩・7位

・齋藤 優羽(大学・スポーツ教育・1年) 女子走高跳・7位

■U20全国陸上競技大会(10/24)

・山本 竜也(大学・スポーツ教育・1年) 男子棒高跳び・優勝

・小林 拓巳(大学・スポーツ教育・1年) 男子棒高跳び・2位

・岡本 風香(大学・スポーツ教育・2年) 女子棒高跳び・3位

・齋藤 優羽(大学・スポーツ教育・1年) 女子棒高跳び・6位

②レスリング部

■2020年文部科学大臣杯 全日本大学グレコローマン選手権

・原田 真吾(大学・スポーツ教育・2年) 72kg級・8位

■2020年東日本学生レスリング選手権秋季大会 (11/24、11/26)

○新人戦グレコローマンスタイル

・庄司 秀(大学・スポーツ教育・2年) 55kg級・2位

・太田 楓輝(大学・スポーツ教育・1年) 63kg級・3位

・原田 真吾(大学・スポーツ教育・2年) 72kg級・優勝

・喜多 康介(大学・スポーツ教育・1年) 72kg級・3位

・宮田 大地(大学・スポーツ教育・2年) 77kg級・3位

・櫻庭 翔真(大学・スポーツ教育・2年) 82kg級・3位

○新人戦フリースタイルA

・鈴木 爽元(大学・スポーツ教育・1年) 79kg級・3位

・大原 和也(大学・児童教育・2年) 92kg級・3位

○女子選手権

・宮原 乙葉(大学・スポーツ教育・2年) 50kg級・優勝

・嶋田 英莉(大学・児童教育・1年) 55kg級・3位

・向山 凜(大学・児童教育・2年) 57kg級・優勝

・元木 咲良(大学・スポーツ教育・1年) 59kg級・優勝

・伏部内 まこ(大学・児童教育・2年) 62kg級・3位

■2020年天皇杯全日本選手権 (12/17、12/20)

・櫻井 つぐみ(大学・スポーツ教育・1年) 55kg級・優勝

・下野 佑実(大学・スポーツ教育・2年) 53kg級・3位

③女子バレーボール部(大学・短大)

■群馬県大学バレーボールリーグ

優勝

育英短期大学幼児教育研究所 リカレント講座

本研究所では、幼児教育・保育に携わる方々を対象にした「リカレント講座」を実施しており、少しでも地域に貢献できればと考えています。

令和2年度前期は、次の講座を実施し、講演のほかにも所員による個別相談も行いました。



■8月28日(金) 17時30分～19時

演題 「コロナ禍における子どもと保育者自身の心のケア」

講師 石川京子先生(NPO法人リンケージ理事長)

講話では、子どもの発するサインを「からだのサイン」「表情のサイン」「行動のサイン」として分類し、大人がその子どものサインを受け止め、どのようなケアをしたらよいのか、そのケア方法などについて説明がありました。

桔梗祭2020

大学祭実行委員長(大学)

笠原 花凜

大学祭実行委員長(短大)

大塚 彩靖乃

今年のテーマは「Re:Start」
「繋がれ今という一瞬を」です。新型コロナ
ウイルス感染拡大の影響から分散授
業等で専攻・学科内でも交流が出来てい



ないことから、育英大学・育英短期大学が
一致団結し、再スタートできるような願
いを込めて今回のテーマに決定しました。

今年の桔梗祭は新型コロナウイルス感
染予防対策として、群馬県のガイドライ
ンに基づき、マスク着用や受付時の検温、



消毒の配置などの徹底や開催日の短縮を
行うなど最大限の感染予防の取り組みを
行い実施しました。

ステージ場では様々な企画やサーク
ル・クラブなどによる発表を行いました。
イントロクイズを始めジュエスチャーゲー



ム、男装・女装など計7企画では、学生が
更に盛り上げられるように工夫を凝らしま
した。企画については、全ての企画に対
して感染対策を行うなど初めて行う内容
であったため、大変苦労しました。

苦労した分、無事にこの日を迎えられ
たこと、学生みんなが笑顔になれたこと、
達成感と安堵感でいっぱいになりました。
当日においても大きなトラブルはなく、
楽しくそして安全に桔梗祭を終えること
ができました。新型コロナウイルス感染
拡大の影響から、例年より準備期間を設
けることが出来ず、限られた時間の中で

精一杯取り組んできました。不慣れな点
もありましたが、私達にとって貴重な経
験となりました。開催にあたり、ご担当
いただいた先生方をはじめとした大学祭
実行委員会の協力を得てコロナ禍にも負
けない新たな大学祭を作り上げることが
できました。

新型コロナウイルスの感染が一日も早
く終息し、来年も更に皆様が楽しめる大
学祭になることを心より願っています。



育短リレーコラム

子育て支援ができる保育者養成を目指して

保育学科

准教授 大屋 陽祐



現在、日本は少子高齢化が諸外国に比べてとても速いペースで進行しています。また、家族形態も大きく変化してきており、子ども世帯と親世帯が同居する大家族の形態から「夫婦のみ」「夫婦と未婚の子ども」「父親または母親と未婚の子ども」といった世帯である核家族が増加しています。そして、国民生活基礎調査(2019)によれば、令和元年度の世帯数が51,785世帯に対して平均世帯人員は2.39人と1世帯で構成する人数が3人を割っていることから家族の中で兄弟・姉妹の関係が減少していることが推察できます。そのような中、子ども・子育て新制度が2017(平成29)年にスタート

し、保育需要はより高まった傾向にあります。

これらの傾向に伴い保育の現場では、保育者が保護者から子どもを預かり発育・発達を支えるのみならず、保護者の子育てに関する悩みや不安を受けとめ、保護者が子育てに対して肯定的に取り組めるよう支援していくことも求められるようになってきました。保護者はどの時代になっても子どもをよりよく育てたいと考えています。現代は子育てに対して不安や否定的になる保護者も少なくありません。現代の子育て支援においては保護者のストレスを発見し、保護者が子育てに前向きになれるような言葉かけや支援が必要となります(ストレス視点)。保育の現場で保護者の気持ちに寄り添い、保育者と保護者が子どもの成長を共に喜べる関係を築けるように子育て支援についての学びを学生が深められるように講義内容を充実していきます。

会期
より
翔飛
だよ

令和2年度定期総会

(書面総会)

令和2年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、本学での開催ができず書面総会として7月1日から13日にかけて開催されました。

総会では、令和元年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和2年度新役員を選出、令和2事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認されました。

その後の支部会についても役員の皆様に意見を伺い実施見合わせとなりました。

ております。

また、飛翔会の大きな行事である桔梗祭(学園祭)での「青空市場」も在学生だけの開催となつたため、中止となりました。

このような状況下ではありますが、新型コロナウイルス対策をはじめ、学生の教育諸活動・就職活動の支援に尽力していきたいと思っておりますので、今後とも皆様のご支援とご協力をお願い申し上げます。

後援会だより

令和2年度定期総会(書面総会)

令和2年度の定期総会は、新型コロナウイルス感染症の影響で、7月14日から30日にかけて書面による総会とさせていただきます。

総会では、令和元年度事業報告、決算報告、会計監査報告、令和2年度新役員の改選、令和2事業計画案、予算案を審議いただき、原案どおり承認されました。

また、事業費については、大学の指定強化クラブ(陸上部、レスリング部、バレーボール部)、地域活動で活躍している和太鼓部、ハワイアン部に対して支援を厚くすることとしました。

これからも後援会としてできる限りの支援をしていきたいと思っておりますので、引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

桔梗会だより

令和2年度定期総会(書面総会)

このたびの新型コロナウイルス感染症の影響で、今年度の桔梗会総会は対面での通常開催が難しく、書面での総会開催といたしました。

7月に開催された書面総会では、書面表決の形で今年度の同窓会活動等の内容が審議され、決定されました。

今年度の主な事業においては、卒業謝恩パーティーへの経費補助、卒業生への記念品贈呈、桔梗

祭カミングキャンパスデイへの特別補助等の事業に加え、夏場に向けての教室等の熱中症予防対策の環境整備のための「新型コロナウイルス対策支援補助」事業が承認されました。この事業については、8月付けに必要な環境整備費用に充てていただくため20万円を本学園に寄付しましたことを報告いたします。

これらの事業を通し、桔梗会として在校生、卒業生への支援を深めると共に、育英大学・育英短期大学発展のため尽力していきたいと思っております。

今後とも皆様方のご理解、ご協力をお願い申し上げます。

育英高校だより

生徒数

普通科 1,445人

保育科 213人

新年のお祝い申し上げます。

前橋育英高等学校

校長 金子 雅人



昨年は、年明け早々新型コロナウイルスの感染拡大の中、四月より前校長の山田先生に替わり新校長となりました。学校は、四月からの約二ヶ月間、臨時休校が続き、六月に入り、分散登校から通常登校となりました。そして、今日まで学校にとって大切な節目である入学式を始め、予定されていた多くの学

校行事が中止となりました。また、部活動の県大会や全国大会は、その代替大会が八月以降実施可能となりましたが、多くの制約がある中での実施となつています。現在も新型コロナウイルスの拡大は、治まるどころかさらなる拡大が心配される状況です。

しかし、コロナ禍の中にあつて、これまでの学校教育のあり方を見直す良い切っ掛けともなりました。それは、オンライン授業に代表されるICT教育導入の加速化です。

本校も校内情報環境の整備を急ぎ、11月中旬にWiFi工事完了しました。また、令和三年度入学生は、全員PCを購入してもらいPCを使用した授業を行います。これは、本校だけで無く、本県全ての公立高校でも同様に実施されます。

そして、令和四年度入学生から全国一斉にカリキュラムが変更となります。そのため本校においても新たなカリキュラム編成をしなければなりません。思い切った類型の変更も含めて、今以上に魅力ある学校とするため、先生方からの意見をとり入れながら編成をしています。今年度は、令和四年度入学生の生徒募集を新年度早々始めなければなりません。

最後に私たちの生活は、「マスク着用 手洗い 消毒」と「新しい生活様式」を意識したものとしました。まずは、第一に「命」を守ること。そのためにも感染予防を前提とした学校運営に努めますので、今年もよろしくお祈りします。

学監挨拶



学監 山田 耕介

明けましておめでとうございます。令和3年の年頭にあたりまして、ご挨拶申し上げます。

前年度まで学校長として皆さんとともに、前橋育英高等学校発展のために努力して参りましたが、今年度は、学監という立場でサポートしています。さて新型コロナウイルス感染症の国内での流行が始まつてか

教頭挨拶



教頭 上原 敏広

新年あけましておめでとうございます。本年もよろしくお祈り申し上げます。

昨年はコロナに始まりコロナに終わった1年でした。(今も続いておりますが...)学校はもとより、企業や自治体国から世界から、何から何までもが動きを滞らせた1年でした。私が当たり前だと思つていた日常は国や自治体の手によって維持されていた

副校長挨拶



副校長 神山 義幸

新春のお祝いを申し上げます。今年度より副校長を拝命しました神山です。まだまだ至らない点も多くあると思いますが、今年もご指導ご鞭撻をよろしくお祈り申し上げます。

さて、学校教育法では副校長は「校長を助け、命を受けて校務をつかさどる。」とあります。また同じ条文で教頭は「校長(副校長を

事務長挨拶



事務長 武田 雅彦

新年あけましておめでとうございます。

昨年は世界中が新型コロナウイルスに翻弄され続け、生活様式の変更を強いられ

た1年でした。終息にはまだまだ時間が掛かると思われませんが、「未知の病原体に対して、現代社会は」こんなにも脆弱だったのか?とあらためて気付かされました。生徒諸君や保護者の皆様

ものであったのだな、とつくづく感じました。私たちが当たり前に享受しているものは本当は当たり前ではなかったのです。それを以て新しい一年を展望しますと、例年のように漫然と四季をすごしてはならないと思いました。平々凡々たる日常を平々凡々たらしめている多くの人たちの尽力に感謝し、衣・食・住はもとより、働けること、学べること、その場所があること、集まり人と話ができることが実は有り難いことなのだと日々実感し過ごしていきたいと思つています。一年を丁寧に過ごしてまいりましょう。よろしくお祈りいたします。

には、つらく大変な一年だったと思つていますが、平穏な日々は必ず取り戻せると信じて、今後も最善の努力を続けていきたいと考えています。さて、本校では今春4月、第59期生が入学してきます。事務室としては、生徒諸君や教職員に気持ち良く学校生活を送ってもらえるよう、各種の事務手続きを適切に行うことはもちろん、施設や設備の安全管理、改修・充実などに尽力していきたいと思つています。何かと至らぬ点多々あるかと思つていますが、本年もご指導ご鞭撻のほど、よろしくお祈り申し上げます。

進路指導部より

進路指導部主任 渡辺 貴弘

新型コロナウイルスの影響で今年度は異例のスタートとなりました。始業式数日後には臨時休校が始まり、6月まで登校ができない状況となりました。さらには大学入試改革の混乱もあり、進路を考える上で特に3年生は非常に多くの不安を感じていたと思います。そうした状況の中、学習面では本校教職員によるオンライン学習動画の配信

やスタディサプリを活用した学習支援などを通して、1年生から3年生まですべての生徒が「学びを止めない」ことができたのではないかと考えています。コロナ禍の混乱の中で実施された総合型選抜、学校推薦型選抜においては、国公立大学に15名、私立大学では早稲田大学、慶應義塾大学、東京理科大学、MARCHを含む多くの大学に合格者が出ています。通常対面式で実施する面接がウェブ形式になったり、出願の際にプレゼンテーション動画の提出を求めら

れたりするなど大きな変化があった中で、多くの生徒がこれまでに培ってきた力を存分に発揮することができました。この困難な状況の中で昨年以上の実績が残せていることは大変素晴らしいことだと思います。いよいよ大学入学共通テストが近づいてきました。本校生徒は志願者全員が第1日程を選択しました。新たな試験ということとで過去問がなく、昨年実施された第2回試行調査を参考にしたい予想問題しかない中で、教職員と生徒が一丸となって対策に

励んでいます。試験会場ではコロナウイルス感染拡大防止のために例年とは違う環境での受験が予想されます。そうした状況の中であっても、落ち着いた姿勢で自分の持つ力を最大限に発揮できることが前橋育英高校生の強みだと思います。進路実現に向けて勝負に挑んでいる3年生、そしてどんな状況であっても学びを止めず、未来に向けて成長し続けようとする生徒への応援よろしくお祈いします。

12月23日(水)2学期終業式の前に「優秀前橋育英生」表彰式が行われました。「優秀前橋育英生」は文化・スポーツ等で顕著な成績をおさめた生徒に対し後援会から贈られる制度です。(後援会会則第4条第5項の2に拠る)今年度は以下の生徒・団体が対象になりました。

優秀前橋育英生 表彰 12月23日(水)

- 陸上競技部 古澤 一生(3年)
- 令和2年度群馬県高等学校体育大会 棒高跳 5 m 51 日本高校新記録
- ウエイトリフティング部 原 志歩(3年)
- 令和2年度全国高等学校ウエイトリフティング競技通信記録会 女子55kg級 優勝
- ボランテア部 稲垣 美咲(3年)
- 第44回全国高等学校総合文化祭 2020こうち総文 WEB SOUBUN
- ボランテア部門 参加
- 吟詠剣詩舞 柴崎 栞帆(3年)
- 第44回全国高等学校総合文化祭 2020こうち総文 WEB SOUBUN
- 吟詠剣詩舞部門 参加

全日本高等学校女子サッカー選手権大会出場

女子サッカー部

監督 大手 真智子

今年は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、インターハイが中止になり、自粛期間が続き思うように練習できない日々が続きました。

そんな中、七年連続七回目のチャレンジでしたが、関西第一位である大商学園高校に0対1で敗退。前半四分に失点し、後半なんとか追いつこうと果敢に攻め続けましたが、一点が遠く涙を呑みました。最後まで諦めず、何としても勝ちたいという気迫溢れるプレーで沢山の人の感動を与え、白熱した熱いゲームでした。そして、何よりも自粛期間中苦し

かった事を忘れるかのように、サッカーでできる喜びを思いっきり表現しているかのようにもみえました。

初戦敗退というこれほど早い敗戦に涙は止まりませんでした。ここまであらゆることを犠牲にし、すべてを懸けて戦ってくれた選手達に感謝しています。

また、保護者の皆様には、遠く兵庫の地まで応援に駆けつけてくださり本当にありがとうございます。

今年のチームは三年生を中心として素晴らしいチームを作り上げてくれました。三年生には、心から感謝しています。前橋育英高校の誇りを胸に、次のステージでの活躍を期待しています。

最後になりますが、本大会に際しまして、沢山の応援ありがとうございます。心より感謝申し上げます。

私たちは、これからも精進してまいりますので、応援宜しくお願い致します。

ウィンターカップ

2020出場

男子バスケットボール部

監督 加賀谷 寿

今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響で大会の中止が続き、唯一開催されたウィンターカップへの出場でした。一回戦の相手は北海道の駒大苫小牧でした。留学生がエントリーされており、粘り強いプレイをするチームでした。

序盤はシュートがことごとくリングに嫌われ、相手のペースで試合が進みました。後半になり選手も体が動くようになり、

ライフエンスからファーストブレイク、3ptシュートが決まりだし試合終盤はボールへの執着心が上回り僅差ながら勝利する事が出来ました。二回戦の相手は熊本九州学院でした。試合への入り方も悪くはなかったのですが、それ以上に相手のオフエンスのシュートが入り、自分達のペースを握ることが出来ないまま試合終了でした。今年度は練習、試合を十分に出来ない中で全国大会ではありましたが選手たちが限られた時間の中で一生懸命頑張ったと思います。

特に三年生は少人数ながらチームをまとめてくれたことには感謝の気持ちでいっぱいです。今年大会出場に際し学校関係者、保護者には大変感謝しております。これからも変わらぬ応援を宜しくお願い致します。